

# 山口県立 総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特集

## 頭頸部外科とは？



2022.8 Vol.49

- ① 池田副院長挨拶 ポストコロナパンデミックで目指すべき急性期病院の医療体制
- ② ③ ④ 特集 頭頸部外科とは？
- ⑤ 看護部通信 心不全の発症・再発予防のための療養指導
- ⑥ 地域医療連携ニュース 令和4年度体制スタート！ / 院長だより
- ⑦ インフォメーション 令和4年度病院優良職員表彰、県民公開講座開催予定、編集後記 外来診察担当医表(別紙)

# ポストコロナパンデミックで 目指すべき急性期病院の 医療体制

LEADER's

INTERVIEW

副院長

池田 安宏



## 様々なリスクに対応できる 安定したチーム医療を目指す

2022年4月から副院長を拝命いたしました。新型コロナウイルス感染症流行も3年目に入り、パンデミックからエンデミックに移行する局面に入っています。このウイルス流行は、我々がこれまで認識していなかった医療体制の脆弱性、たとえば全国の病院で起こったスタッフ不足や患者受け入れ困難などを、あらためて認識する機会を与えてくれたと思います。幸い、当院の感染対策チームは、いち早く専門的治療ができる病床を確保し、中等症から重症までのコロナ感染症患者さんの治療に比較的早期から取り組むことができています。一方で、2022年1月のオミクロン株の流行早期には、一般病棟に端を発する大規模な院内感染クラスターを経験し、感染症と急性期医療の両立の難しさも経験しました。

今後当院では、国の施策方針に基づいて、様々な感染症流行下でも高度急性期病院として安定した医療提供体制を維持できるように、多職種のチーム医療、医療業務継続計画の強化を推進していきます。強固な感染対策チームの維持はもちろんのことですが、院内の患者さんの医療安全をより高度なレベルで確保する院内迅速対応システム(RRS)の整備や、救命救急センターでの断らない受け入れ体制の維持、さらには早期診断と早期治療を可能とする高度な医療体制の提供に取り組んで参ります。地域の先生方に信頼されるパートナーとして使っていただける体制を提供できるよう頑張りますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

## 特集 | 頭頸部外科とは？

### ■頭頸部外科について

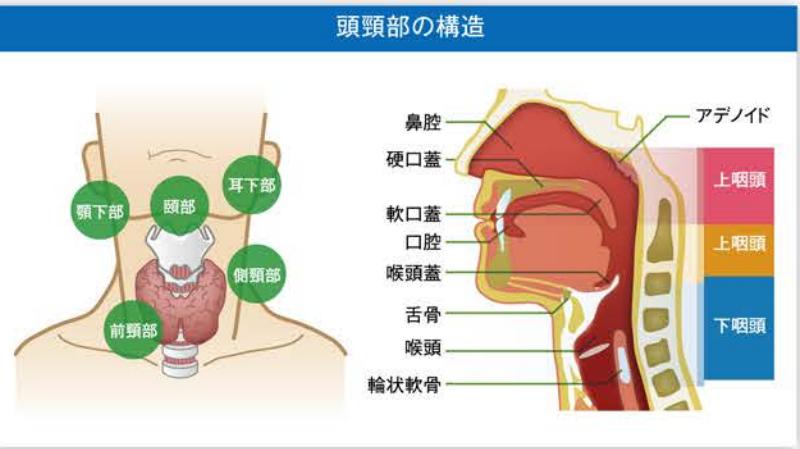
耳鼻咽喉科、という名前は多くの皆さんがご存知だと思います。字の如く、耳、鼻、のどの疾患を診察し、治療する診療科です。1893年に我が国で耳鼻咽喉科が誕生したとされていますが、それから約130年の時を経て、2021年6月に、日本耳鼻咽喉科学会は「日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会」に改称しました。その理由は、耳、鼻、のどの疾患、という漠然としたイメージから、「頭頸部外科」という、脳と目を除く首から上の全ての病気の外科的治療も行っていることを多くの皆さんに知っていただきたいからです。当科も、その思い

は以前から同じくしており、学会の改称に先駆け、2020年10月に、「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」へ改称いたしました。頭頸部外科では、どのような疾患が外科治療の対象になるかご紹介します。慢性中耳炎、慢性副鼻腔炎、慢性扁桃炎、睡眠時無呼吸などの慢性疾患、頸部膿瘍などの急性炎症性疾患、耳下腺や頸下腺などの唾液腺腫瘍、そして鼻副鼻腔がん、舌がん、喉頭がん、咽頭がんなどの悪性腫瘍です。これらに対して行われる外科治療は全て「頭頸部外科」で行う手術となります。

### ■手術について

慢性中耳炎、慢性副鼻腔炎の手術は、顕微鏡、内視鏡などの光学機器が進歩したことにより、近年、飛躍的にその手術手技が進歩しました。加えて、ナビゲーションシステムを併用することにより、より安全な手術が可能となりました。当科でも、それらの最新機器を十分に活用し、安全で、完成度の高い手術をこころがけています。

睡眠時無呼吸に対して行う口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術は、主に小児を対象とした手術となります。1歳くらいのお子さんからでも手術の対象となりますが、手術は全例で全身麻酔が必須となります。そのため、小児の麻酔を安全に行うこと精通した麻酔科、そして、術前、術後の全身管理を支えてくれる充実した小児科の存在が不可欠です。頭頸部外科では、そのような体制のもと、多くの小児の手術を行っています。進行した頭頸部がんの手術では、多くの切除範囲を伴います。



※一般社団法人 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会ホームページより

### 診療実績(2021年度)

手術名	件数	手術名	件数
先天性耳瘻管摘出術	2	唾石摘出術(口内法)	1
鼓膜形成術	6	気管切開術	15
鼓室形成術	2	頸部良性腫瘍摘出術	0
リンパ節生検	23	頸部郭清術	24
鼻中隔矯正術	20	頸下腺摘出術	2
鼻甲介切除術	17	耳下腺良性腫瘍摘出術	5
内視鏡下鼻副鼻腔手術	55	耳下腺悪性腫瘍摘出術	1
鼻副鼻腔良性腫瘍摘出術	2	甲状腺良性腫瘍摘出術	7
鼻副鼻腔悪性腫瘍摘出術	5	甲状腺悪性腫瘍摘出術	7
口蓋扁桃摘出術(含むアデノイド切除術)	121	深頸部膿切開術	3
舌・口腔良性腫瘍摘出術	13	副甲状腺摘出術	4
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	11	鼓膜切開手術	20
咽頭良性腫瘍摘出術	6	鼓膜チューブ挿入術	45
咽頭悪性腫瘍摘出術	11	異物摘出術(外耳・鼻腔・咽頭)	27
ラリングマイクロサージェリ	12	その他	38
喉頭悪性腫瘍摘出術	4	合計	509



### ■治療方法とその効果

例えば、舌がんでは、十分な安全域を設定し、根治的な治療を行う場合、舌の半分近くが切除されてしまうことがあります。舌は、咀嚼、嚥下、構音など、生命に直結はしないものの、生活の質に対してとても大切な役割を担っており、その半分近くが切除されたままだと、口から物を食べることも、言葉で十分なコミュニケーションをとることも不可能です。そのため、切除して失われた部分を、体の他の場所の組織で補い、術後の機能障害をなるべく少なくするための「再建手術」を同時に行うことが不可欠です。再建手術では「遊離皮弁」といって、体の他の組織からその組織を栄養している血管ごと切り離し、欠損した部分を補う的同时に、頸部の血管と切り離した組織の血管を顕微鏡下でつなぐ「血管吻合」という形成外科の高度な手技が必要になります。また、このような手術は長時間手術となり、術後の全身管理を集中治療室で行う必要があります。



### ◆当院で治療を行っている主な頭頸部腫瘍疾患一覧

疾患名	症 状	治 療
咽頭腫瘍	扁桃の腫れ、のどの異物感、出血	病理組織学的検査、細胞診検査、CT検査、MRI検査
喉頭腫瘍	嗄声、痛み	内視鏡検査、超音波検査、病理組織学的検査、細胞診検査、CT検査、MRI検査
唾液腺腫瘍	発生部位の腫れ、しこり	超音波検査、CT検査、MRI検査
甲状腺腫瘍 <sup>※1</sup>	腫瘍が大きくなるとのど仏の下あたりにしこりが認められるようになる。	超音波検査、細胞診検査、CT検査、血液検査
鼻・副鼻腔腫瘍	鼻水、鼻づまり、鼻出血	病理組織学的検査、CT検査、MRI検査
口腔腫瘍 <sup>※2</sup>	口内炎の治癒の遅れ 白板症(粘膜がべったり白くなること)	病理組織学的検査、CT検査、MRI検査、超音波検査

※1 他医療機関との連携により、アイソトープ治療を行うことがあります。

※2 当院の歯科口腔外科との協働により、治療を行っています。



### ■当院での他科との関わり

術後は、術創の回復だけでなく、嚥下や構音などの機能回復を促進するためのリハビリテーションなども必要です。頭頸部がんの手術では、がんの部分を切除して取り除くだけでなく、術後の生活の質まで考えて手術するために、形成外科、麻酔科、歯科口腔外科、外科、脳神経外科をはじめとする多くの診療科や医療スタッフが一緒にになって一人の患者さんを治療する「チーム医療」を行うことが重要であると考えています。当院では環境に恵まれており、充実したチーム医療で頭頸部がん手術を行うことができる、県内でも数少ない病院です。

### 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の医師紹介



耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療部長  
**竹本 剛**(たけもと つよし)

【専門分野】

耳鼻咽喉科 頭頸部外科

【資 格】

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 専門医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
日本頭頸部外科学会 頭頸部がん専門医・指導医  
日本内分泌外科学会 内分泌外科暫定専門医

日本聴覚医学会 補聴器適合判定医  
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 補聴器相談医  
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 耳鼻咽喉科専門研修指導医  
山口大学医学部 臨床講師

当科は「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」であり、めまいや難聴、アレルギー疾患、急性炎症など、耳鼻咽喉科一般の内科的治療も行っています。耳鼻咽喉科の外科的、内科的、すべての疾患に対応しておりますので、お気軽にご相談ください。

外来診療担当医表

	月	火	水	木	金
1診	竹本 剛医師	竹本 剛医師 11:00～	竹本 剛医師		竹本 剛医師 11:00～
2診	折田 浩志医師 11:00～				折田 浩志医師
午後	エコー外来		エコー外来		エコー外来

看護部  
通信



## 心不全の発症・再発予防のための療養指導

心不全療養指導士 看護師 松本 努



皆さんは心不全と聞くと、どのようなことを思い浮かべられるでしょうか。心不全は加齢とともに発症・進行しやすい病気です。超高齢社会を迎えた現在、我が国的心不全患者は約100万人いると推計されています。さらに2035年までは高齢化とともに増加し続けると見込まれており、心不全は社会的な健康課題となっています。

心不全は、心臓のポンプ機能が不調な状態です。

全身に血液を巡らすポンプの不調は、息苦しさや全身のだるさとして自覚されます。このような症状が続くと、しばしば患者さんの生活の質を低下させることにつながり、その人らしい生活を障害することになります。

私は心不全療養指導士として、そういう生活の質の低下を予防できるよう、入院患者さん本人及びご家族の方に向けて、病気についての生活上の知識や管理方法について情報提供を行っています。患者さんの入院時から、医師と連携して病状の改善を図るとともに、個々の生活状況や不安に感じていることを聞き取ります。そして、退院してからも、心不全の再発予防のためのセルフケアを継続できるよう、現実的かつ具体的な説明を行うことを大切にしています。

心不全の療養で最も重要なことは、患者さんが心不全という病気とうまく付き合いながら、住み慣れた環境で自分らしく生活していくことです。そのためにも地域の医療・福祉専門職と連携しながら、療養のサポート体制を整えて参ります。



令和4年度体制スタート!

## 地域医療連携 NEWS

ニュース



新年度が始まり、地域医療連携室の顔ぶれにも変更がありました。これまで以上に患者支援・地域連携を充実させ、入院から在宅まで切れ目のない医療を提供するための取組を進めてまいります。

就任のご挨拶



地域医療連携室次長・看護師長

秋山 満千栄

この春、地域医療連携室配属となりました。ここに来て、改めて、多職種が連携し合い、医療サービスが成り立っている事を実感しています。当院の使命は、地域の医療機関等と連携し、円滑な受診受け入れや退院時の在宅への復帰を促進する事です。地域の皆様に頼られる病院を目指していく必要があります。

異動後3ヶ月が経過し、一つ一つが線となってつながって見えてきました。微力ではありますが、地域医療の連携に貢献できるよう頑張ります。どうぞ宜しくお願いします。

就任のご挨拶



地域医療連携室主査・社会福祉士 石崎 貴裕

近年の厚労省は、医療機関の特性に応じた役割分担や、医療と介護の連携を重視した政策を進めており、地域連携業務はこれらの実現に向けて最前線で重要な役割を担うことが期待されています。

私は20年以上医療事務職を勤めてきましたが、患者さんへの接遇や相談援助スキルの研鑽を目的として社会福祉士の資格を取得したところ、6月から地域医療連携室に配属となりました。

前職で培った保険制度や施設基準等の知識を生かし、地域医療連携室の5年先、10年先を見据えた変容に取り組みたいと考えています。社会福祉士としては一年生ですが、他の職員とは少し異なる視点を持った相談員として、患者さんの援助や地域連携の推進に貢献できるよう努めてまいります。

院長  
だより



今年は梅雨が短く、早々に暑い夏の到来である。これといった行動制限がない中、熱中症予防でマスクを外す機会も増え、オミクロン株「BA.5」が猛威を振るっている。感染者数が全国各地で「過去最多を更新」とよく耳にする。医療現場の緊張は続く。飛行訓練を繰り返す若いツバメの南の島へ向かう巣立ちも間近い。また来い、幸福よ。



武藤 正彦



## 令和4年度 病院優良職員表彰



このたび、薬剤部の齊藤智子部長と中央検査部の藤原智子副技師長が一般社団法人山口県病院協会から「令和4年度病院優良職員表彰」を受賞しました。この表彰は、長きにわたり病院職員として病院の発展に尽力した職員に贈呈されるものです。

## 令和4年度 県民公開講座の開催について

今年度の県民公開講座は従来の集合型とweb参加型のハイブリッド式で開催しています。

今後の開催日程と参加方法についてお知らせします。

受講料無料

### 令和4年度 県民公開講座の開催予定

開催日時	テーマ	出 演	会場(集合型)
9月17日(土) 14:00~15:00	消化管がんと内視鏡	消化器内科 岡本 健志 医師	WEB参加型のみ
10月22日(土) 14:00~15:00	糖尿病	内分泌内科 竹田 孔明 医師	当院2階 大会議室

### ◆参加方法

#### 【集合型】(定員30名)

事前申込が必要となります。

当院ホームページから参加申込書をダウンロードしていただきか、事務部総務課(0835-22-4411)までお電話ください。

※新型コロナウイルス感染流行期の場合、集合型は中止しWEB参加型のみとさせていただきます。



#### 【WEB参加型】(Zoom+YouTubeライブを使用し配信)

事前申込は不要です。

当院ホームページに設置する専用タブをクリックしていただき、ご参加ください。



### ・編集後記

この夏も感染対策を講じつつ、子ども会のドッヂビーにコーチとして参加しました。ドッヂビーとは、ドッジボールのボールを柔らかいディスクに変えたゲームです。当初は自分たちがやりたいようにやっていましたが、練習を重ねるにつれて、子供一人ひとりが知恵を出し合い、声を掛け合って、チームとして連携が取れるようになってきました。その大会では強豪チームにも勝ち、チームワークの大切さを痛感しました。このコロナ禍で仕事をするうえで、不測の事態になったとしても、チームで連携を取り合って乗り越えたいと思います。次回号を発行するころには、感染者数が激減していることを祈っています。(総務課Y. N.)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



山口県立総合医療センター  
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地  
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210  
URL <https://www.ymghp.jp/>